

図画工作科

1 昨年度の授業改善プランの検証 【成果（○）と課題（●）】

知識・技能

- 低学年では、紙や粘土などを中心に、指先を使う活動を多く取り入れることにより、からだ全体の感覚を高めるとともに材料に慣れさせることができた。
- 中・高学年では、様々な描画材を経験させることで、自分の表したいことに合った描画材の特徴を生かして使ったり、表現に適した方法などを組み合わせたりして、表すことができた。
- 表したいことを実現するための、基本的な道具の扱いを習得できていない児童がいる。使い方を繰り返し指導していくとともに、道具を適切に扱うことの重要性を感じさせる題材に取り組みさせる。習得が不十分な児童に対する個別指導を行う必要がある。

思考・判断・表現

- ICT機器を活用し、視覚的に作品のイメージを捉えさせたり、言葉で表したいことをまとめさせたりすることができた。
- 様々な形式を用いて鑑賞活動を行い、児童が作品を見合ったり、感想を伝え合ったりすることができた。
- 自分の見方や感じ方を深める力を高めるために、鑑賞活動を充実させ、考えたことや感じ取ったことを言葉で表す機会を更に増やしていく。

主体的に学習に取り組む態度

- 既習事項や他教科で身に付けた力を生かして、自分なりの課題解決を行うことができる児童が増えた。
- 児童の実態に合わせた既習事項を活かす課題の設定や、相互の作品鑑賞の機会を通して、他の作品について肯定的に受け止めることができる児童を増やしていく。
- 安全面に注意し、道具の正しい扱い方を確認しながら、身に付けた力を活かして、自分なりの課題解決を自ら考えることができる児童を増やしていく。

2 授業改善の骨子

- (1) 児童の実態に合わせた適切な材料・用具を使用したり、既習事項を組み合わせる活動を設定することで、様々な造形活動で活用可能な知識・技能の習得を図る。

【知識及び技能】

- (2) 表現や作品の鑑賞を通して、造形的なよさや美しさ、表し方について考え、自分の見方や感じ方を深める活動を設定する。

【思考力・判断力・表現力】

- (3) 児童の実態に合った課題を設定し、児童が学習を振り返り、表現・鑑賞を通して既習事項との関連に気付いたり、身に付けた力を生かして、自分なりの課題解決を行ったりできるようにする。

【主体的に学習に取り組む態度】

図画工作科

プラン①

児童の実態に合わせた適切な材料・用具を使用したり、既習事項を組み合わせて表現したりする活動を設定することで、様々な造形活動で活用可能な知識・技能の習得を図る。

- ◎実態に合った技能を習得できる課題を設定する。
- ◎既習事項を使った活動を取り入れ、知識・技能の定着を図る。

低学年

- ・紙などの素材を中心に「切る」「貼る」「ちぎる」など、指先を使う活動を繰り返し取り入れ、十分に慣れるようにするとともに、楽しみながら表現できるようにする。
- ・はさみ、のり、絵の具、クレパス、粘土などの基礎的な使い方を体験的に学ぶ課題を設定し、楽しみながら慣れることができるようにする。

中学年

- ・段ボール・板材などの素材を中心に、のこぎり・彫刻刀・カッターナイフなどを使用する際に、手順や安全上注意することを繰り返し確認し、適切に扱えるようにする。
- ・発想や構想したことを表すために、絵の具やコンテパステルなどの描画材や用具の特徴を生かして使わせるとともに、表し方を考えたり、既習事項を活かしたりしながら表現するように指導する。

高学年

- ・電動糸のこぎり盤を使用する際に、手順や安全上注意することを繰り返し確認し、適切に扱えるように指導する。
- ・自分のイメージに迫るために、既習の用具・素材を使ったり、描画技法を組み合わせたりする等、表現方法を工夫させ、表したいものに応じて活用できるようにする。

プラン②

表現や作品の鑑賞を通して、造形的なよさや美しさ、表し方について考え、自分の見方や感じ方を深める活動を設定する。

- ◎意見を交換したり、文章にまとめたりすることを通して、自分の感じたことや思ったことを適切に表現できるようにする。
- ◎表現や鑑賞の活動を通して、児童の見方や感じ方を深める。

低学年

- ・身のまわりの作品などから感じたことを話したり、聞いたりするなどして、形や色、表し方のおもしろさに気付かせ、自分の感覚でものを見たり感じたりできるようにする。

中学年

- ・身近にある作品などから、感じたことや思ったことを言葉や文章で伝え合い、表現のよさやおもしろさ、感じ方の違いを味わう活動の中で自分の見方・考え方をもてるようにする。

高学年

- ・親しみのある作品や生活の中の造形などから、造形的なよさや美しさについて感じ取ったり考えたりし、言葉や文章で伝え合うことを通して自分の見方や考え方を深められるようにする。

図画工作科

プラン③

児童の実態に合った課題を設定し、児童が学習を振り返り、表現・鑑賞を通して既習事項との関連に気付いたり、身に付けた力を生かして、自分なりの課題解決を行ったりできるようにする。

- ◎児童の実態に合わせた既習事項を生かせる課題を設定する。
- ◎相互の作品鑑賞の機会を設定し自他の作品のよさに気付かせる。

低学年

- ・今までの経験を活かし、活動に応じて材料や用具の使い方を考えさせ、活動全体を工夫できるようにする。
- ・自分や友人の作った作品を進んで見たり、作品について話し合ったりすることで、自分の見方や感じ方を広げられるようにする。

中学年

- ・既習の経験を活かし、新たな造形的な活動を思いついたり、作り方を考えたりすることで活動を発展させられるようにする。
- ・自分たちの作品や身近な美術作品に触れることでよさや面白さなどを感じ取り、自分の見方や感じ方を広げられるようにする。

高学年

- ・既習の経験を活かし、自分の表したいことに合わせて材料や用具を選び、表し方や表現方法などを工夫できるようにする。
- ・自分たちの作品や美術作品などを進んで見たり、触ったり、これらについて話し合ったりすることで、造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴を感じ取れるようにする。